古代から中世、戦国時代、近世初期まで、
多くの未公開文書を含む約二千五百点をオールカラーで刊行！

尊経閣善本影印集成

古文書

第十輯

全12冊

2021年12月刊行開始
定期予約・分売予約募集！

前田育徳会尊経閣文庫 編
【編集委員】藤井譲治・尾上陽介

高精細カラー版

八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.

SONKEIKAKU ZENPON EIINSHUSEI KOMONJYO
A Facsimile series of important classics in the Sonkeikakubunko.

内容見本

刊行の辞

前田育徳会尊経閣文庫 理事長　石田寛人

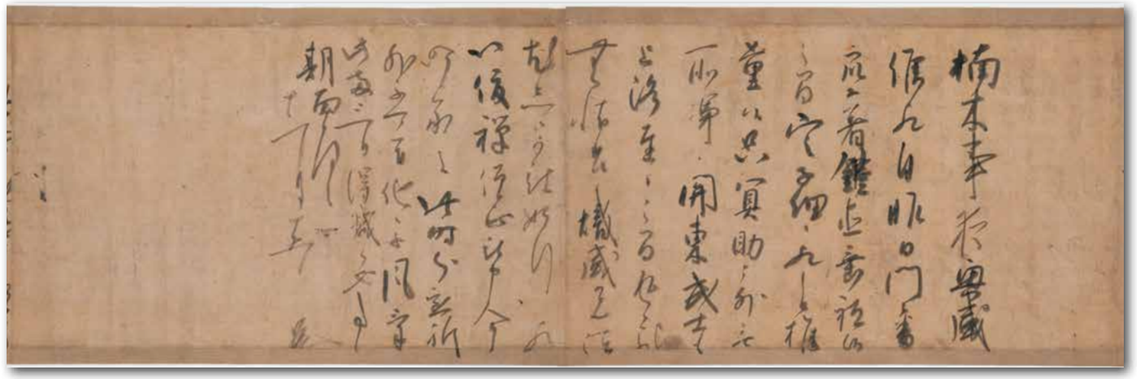
前田育徳会尊経閣文庫は、大正十五年（一九二六）二月二十六日に、前田家第十六代御当主であった前田利為侯が設立した公益財団法人です。利為侯は大正十二年の関東大震災により多くの文化財が焼失したことを目の当たりにして、前田家が所蔵する貴重な文化財を後世に確実に伝えることを意図して財団を創設しました。

当初財団の目的は、加賀前田家に伝来する貴重な古典籍を原装複製して研究機関等に広く無償頒布することにありました。その一環として『尊経閣叢刊』が刊行され、その数は大正十五年六月の『古語拾遺』から昭和二十七年七月の『建治三年記』まで六十四点に及び、現在でも国文学・歴史学などの研究資料として広く活用されています。

この間財団は前田家より所蔵文化財の寄贈を受け、その保存管理が主要な事業になりましたが、平成に入って『尊経閣叢刊』を引き継ぐ複製刊行事業が企画され、八木書店の御協力を得て、『尊経閣善本影印集成』の編纂刊行が開始されました。平成五年（一九九三）十二月の第一輯第一冊『西宮記』の刊行以来、専門研究者の御尽力を賜りながら、全九輯計七十六冊が刊行されています。

このたび、『尊経閣善本影印集成』第十輯として、重要文化財「武家手鑑」や「尊経閣古文書纂」など、財団が所蔵する古代から近世初期の古文書を十二冊に編成し、高精細カラー版で影印刊行することになりました。奈良時代の重要文化財「買新羅物解」をはじめ、天皇・院の御宸翰や朝廷・武家政権の発給文書、荘園・村落の在地史料などの多種多様な古文書を、オールカラー版で御覧いただければと存じます。

最後に、第十輯の編集委員をお引き受け下さった藤井譲治先生、尾上陽介先生、『尊経閣善本影印集成』刊行の継続に御理解・御協力下さった八木書店に感謝いたします。



【国宝】三朝宸翰　花園巻７ 花園天皇宸翰　（年未詳）11 月 15 日

尊経閣文庫について

「尊経閣文庫」は正式には公益財団法人前田育徳会の通称である。前田育徳会の前身である育徳財団は、大正十五年（一九二六）二月二十六日、加賀前田家第十六代当主前田利為により設立された。「尊経閣文庫」は、収蔵品の中核ともいうべき第五代当主前田綱紀の蔵書名「尊経閣蔵書」に因んで名付けられたとされる。文庫が収蔵・管理する文化財は、大別して美術工芸品・典籍文書類・建造物から成り、そのうち国指定文化財は、国宝二十二件・重要文化財七十七件を数え、わが国の特殊図書館（古典文庫）の中では質量ともに群を抜いている。架蔵する典籍文書類は、国書約七千五百部、漢籍約四千百部、古文書約三千五百点を数え、一定条件のもとで研究者の閲覧に供している。

第十輯　古文書 —古代から近世初期まで、多彩な史料約二千五百点—

京都大学名誉教授　東京大学史料編纂所教授
藤井譲治・尾上陽介

尊経閣文庫の古文書 —前田綱紀の集中的採集と分類、近代の再編成による古文書群—

前田育徳会尊経閣文庫には、加賀藩前田家が収集した古文書が多数収蔵されている。その多くは五代藩主前田綱紀（松雲公）の時代に集中的に採集され、綱紀は古文書を「武家手鑑」、「古蹟文徴」、「事林明証」といった形で分類・整理した。明治時代に入って、前田侯爵家の手によってその再編成が意図され、江戸時代以来の「古蹟文徴」「事林明証」といった古文書群を解体し、「尊経閣古文書纂」として再整理された。「尊経閣古文書纂」は、元の所蔵先ごとにまとまって伝来した古文書群を「諸家文書」（「一条文書」など十六群）、「社寺文書」（「石清水八幡宮文書」など十七群）とし、その他の古文書を「編年雑纂文書」とした。「編年雑纂文書」のうち、朝鮮出兵や外交文書など内容別にまとめられるものは「朝鮮文書」「外国文書」「俳人等文書」「宗教関係文書」とし、その他を年次順に番号を付けて「編年文書」、年代・内容不明の史料や断簡類を「未定文書」として整理している。さらに、昭和初期には旧来の「武家手鑑」を再編成し、新たに「武家手鑑」三帖（重要文化財）が作製された。

その内容と特徴 —古代から近世初期まで、在地史料も多数、原型を留める古文書など—

尊経閣文庫の古文書の内容と特徴を簡単に紹介すると、奈良時代の正倉院文書である「買新羅物解」七通（編年文書のうち、重要文化財）を上限とし、平安時代から鎌倉・室町時代の朝廷・武家政権の発給文書（院宣、下文・下知状・御教書、奉行人奉書など）、戦国大名や織田・豊臣政権の発給文書（朱印状や書状など）が多数含まれている。また、加賀藩地域にまつわる古文書も多く、「諸家文書」の「得田文書」「得江文書」「吉見文書」はその関係で収集されたものである。さらに「社寺文書」や「編年文書」「未定文書」には、売券や寄進状、譲状といった在地史料も多く含まれる。成巻されているものもあるが、大部分は一紙物であり、中には裏打ちが施されていないものや、懸紙に収納され切封が残っているものもあり、古文書の原型を知る上でも貴重である。

カラー版刊行の意義 —これまで未公開の文書群の全容がカラー版の豊富な情報で明らかに—

このように多彩な内容を含む尊経閣文庫の古文書については、そのうちの一部が、現在東京大学史料編纂所及び京都大学文学部日本史古文書室に架蔵されている影写本・写真帳や、文庫とその関係者の編纂による『武家手鑑』、『史料纂集　籠手田文書』、『史料纂集　石清水文書』、『鎌倉遺文　補遺編』等の影印本・活字本によって、研究者に公開利用されてきた。しかし、それらに採録されていない古文書が多数存在しており、その全容はほとんど知られてこなかった。この度、文庫が所蔵する古文書のうち、「武家手鑑」と「尊経閣古文書纂」を中心とした古代から近世初期までの史料約二千五百点が、尊経閣善本影印集成の第十輯としてカラー影印刊行されることになった。高精細カラー図版により、これまでのモノクロ影印本や活字本では得られなかった情報も読み取ることが出来る。今回の第十輯刊行によって、古代から近世にわたる歴史研究や古文書学の進展を期待したい。

【重要文化財】
武家手鑑　下帖

編集方針

- ◉本文は、原本様態の鮮明な再現を期し、厳密な撮影による高精細カラー版とする。
- ◉本文図版のキャプションとして、文書番号・文書名・年月日を示し、法量を付記する。
- ◉判型は、利用の便を考慮しB５判を採用。割付は、一つの図版を概ね半頁に収めることを基本方針とする。
- ◉各冊の解説として、収録文書についての概説と、原本調査に基づく書誌情報の一覧表を収録する。

【重要文化財】

㊼ 武家手鑑（ぶけてかがみ） 付旧武家手鑑

〔約 260 点〕

平安末から江戸初期まで、著名な武将が発給した古文書を精選した手鑑

平忠盛・清盛・宗盛、源義朝・頼朝・義経、北条氏、足利氏、信長・秀吉・家康など

「武家手鑑」（重要文化財）は、平安末（平忠盛）から江戸初期（前田利常）までの著名な武将が発給した古文書一五〇点を、折帖の台紙に貼り付けて手鑑としたもの。上・中・下の三帖（各帖五〇点ずつ）からなり、各武将一点ずつをほぼ編年順に収録している。また、かつて出版された前田育徳会尊経閣文庫編『武家手鑑』（臨川書店）で省略された「旧武家手鑑」も収録し、「武家手鑑　付旧武家手鑑」として集成する。

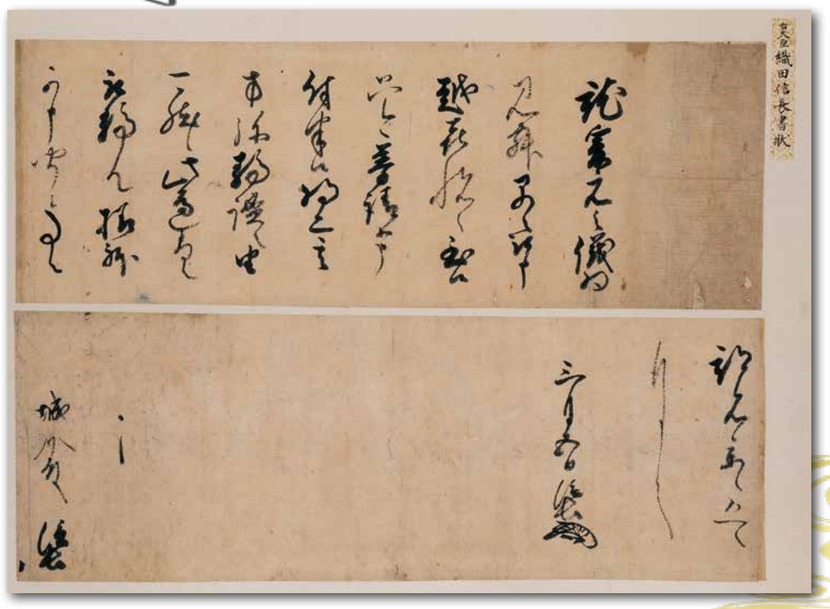
「武家手鑑」上帖には、平安末から南北朝時代までの武将の古文書が収録されている。平忠盛や清盛・宗盛・頼盛、源義朝などの書状類は、聖教類の紙背文書として伝わったもので、自筆とされている。また、鎌倉幕府執権北条氏一族の古文書（関東下知状・関東御教書・六波羅御教書・鎮西下知状）もほぼ網羅されている。

中帖は、南北朝末から永禄期（一五六五年前後）頃までの武将の古文書が中心である。室町幕府将軍家足利氏の御判御教書・御内書は、三代義満から一三代義輝まで一四点あり、このうち義澄・義晴・義輝の三点が御内書である。また、斯波・細川・畠山氏など歴代管領の奉書（室町幕府御教書）も充実している。さらに、細川勝元・山名持豊（宗全）・武田晴信（信玄）・上杉輝虎（謙信）など、戦国時代初期の武将らの書状類も収めている。

下帖は、天正期（一五八〇年前後）から慶長期（一六〇五年前後）頃までの戦国時代後期の武将の古文書を収録する。室町幕府最後の将軍足利義昭の御内書をはじめ、織田信長・豊臣秀吉・徳川家康といった天下人や家臣の書状、その一方で彼らと対峙した浅井長政・明智光秀・北条氏政などの書状も含まれている。

「武家手鑑」は昭和初期に前田家一六代当主前田利為によって、現状に再編成されたが、そのおりに除外された古文書が「旧武家手鑑」として保存管理されていた。点数は一〇八点。編年ではなく人物を氏別にまとめ、文書以外の懐紙や短冊・跋文・故実書など三一点も含まれ、「武家手鑑」が再編された際の採用基準が垣間見える。

織田信長の書状

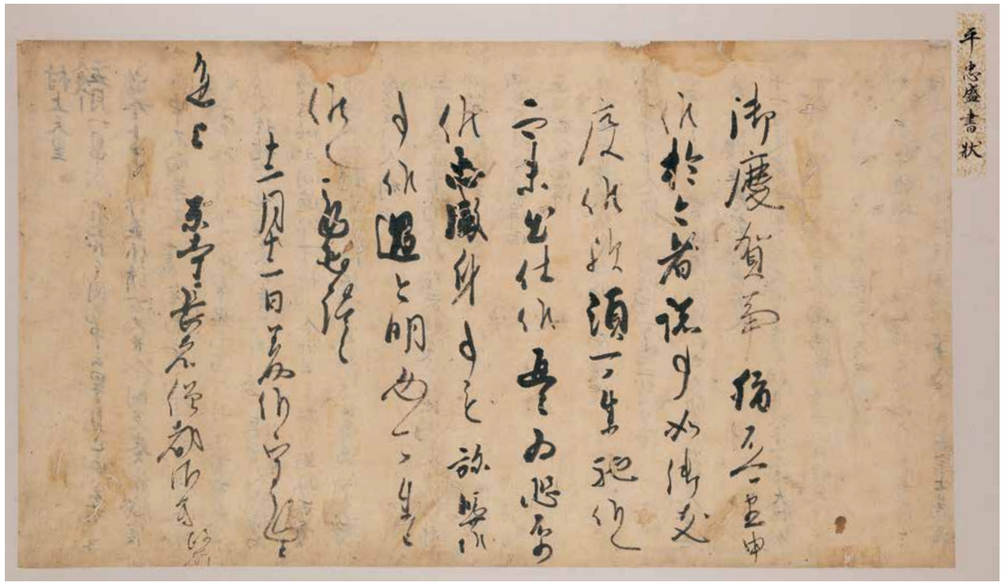


武家手鑑　下帖２　織田信長書状　（年未詳）３月５日　織田信長が嫡男信忠（秋田城介）の見舞いを謝し、安土城普請の状況などを報じた書状。もとは折紙だったが、半分に切って裏面を逆さにし、台紙に貼付。また、裏面奥に墨引と切帯があり、切封形式だったこともわかる。

第1回配本〔2021年12月〕
㊼ 武家手鑑 付旧武家手鑑
予価三一、九〇〇円（税込）
ISBN978-4-8406-2377-3

1 平忠盛書状　（年未詳）12 月 12 日　〔29.6 × 52.8〕

平忠盛の書状



2 平清盛請文（断簡）（年月日未詳）〔31.1 × 25.8〕

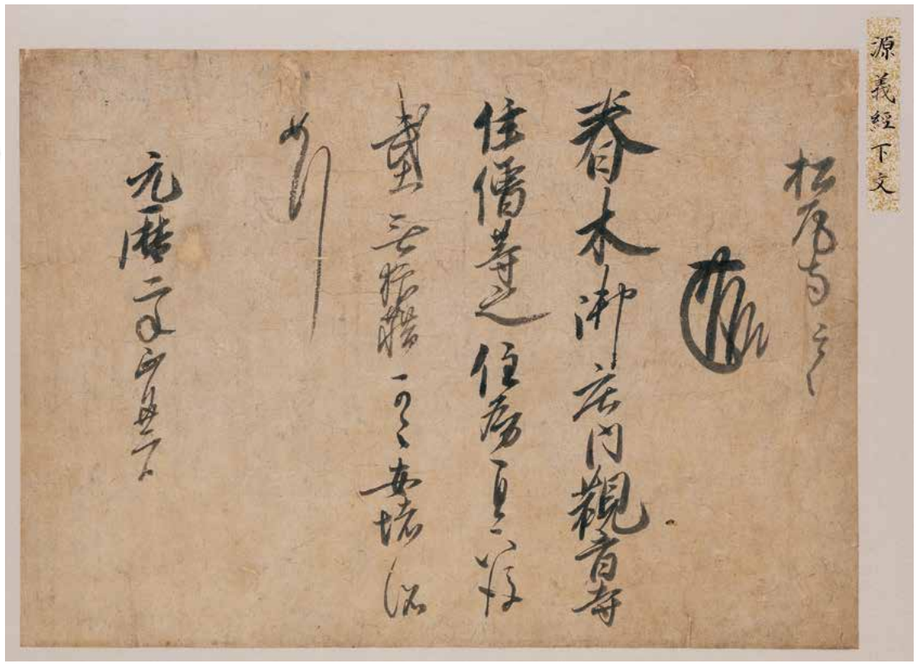
平清盛の請文（うけぶみ）*

*上位者の命令を承諾した旨を伝える文書

11 源義経判物　元暦２年正月 22 日　〔28.2 × 39.5〕

源義経の判物（はんもつ）*

*発給者の花押が記された文書



㊽・㊾ 尊経閣古文書纂（そんけいかくこもんじょさん しょけもんじょ） 諸家文書 一・二

〔約 450 点〕

第2回配本〔2022年3月〕 ㊽尊経閣古文書纂 諸家文書 一 予価三一、九〇〇円（税込） ISBN978-4-8406-2378-0

第3回配本〔2022年6月〕 ㊾尊経閣古文書纂 諸家文書 二 予価三四、一〇〇円（税込） ISBN978-4-8406-2379-7

室町幕府、戦国大名、織豊政権など、武家的色彩の強い古文書群

諸家の内訳は、㊽一条・飯尾・蜷川・堀・日置・加藤・野上・駒井／㊾籠手田・天野・得田・得江・吉見・毛利・当家（前田）・中原

「尊経閣古文書纂」のうち、武家文書を中心とした古文書群で、総点数は四四七点である。内訳は、一条文書＝一七点、飯尾文書＝五七点、蜷川文書＝一二点、堀文書＝一〇点、日置文書＝五点、加藤文書＝五一点、野上文書＝一八点、駒井文書＝二一点（以上、八群を「諸家文書」一として集成）、籠手田文書＝八二点、天野文書＝四五点、得田文書＝二二点、得江文書＝二九点、吉見文書＝一二点、毛利文書＝一〇点、当家文書（前田文書）＝一七点、中原文書＝三九点（以上、八群を「諸家文書」二として集成）。その内容は、武家政権が発給した御教書や奉行人奉書、戦国大名や織田・豊臣政権が発給した書状、さらには着到状や軍忠状などを多く含み、武家的色彩の強い古文書群となっている。

諸家文書のうち飯尾文書は、室町幕府奉行人であった飯尾氏にまつわる古文書群で、飯尾氏の所領があった遠江国羽鳥荘・能登国土田荘・美濃国古呂々比村に関する永正期（一五一〇年頃）の古文書が含まれている。蜷川文書は、幕府政所執事を世襲した伊勢氏の家臣である蜷川氏が戦国時代初期に受給した古文書が大半を占める。また加藤文書は、豊臣秀吉の朝鮮出兵に関する朱印状が大部分を占め、朝鮮現地での上納物資を列挙した目録もあって貴重である。

野上文書は、豊後国玖珠郡飯田郷野上村を名字の地とする野上氏、天野文書は、伊豆国田方郡天野を名字の地とする天野氏にそれぞれ伝わった古文書群の一部であるが、両家ともに名字の地を離れて能登国に移住し、加賀藩五代前田綱紀の時代に古文書を献上して原本を現在に伝えた。また籠手田文書は、肥前国松浦氏の家臣であった籠手田氏に伝来した古文書で、ほとんどが大永期～天文初期（一五二〇～三〇年代）の籠手田定経宛の武家儀礼に関する書状であり、『史料纂集古文書編　籠手田文書』（八木書店）に翻刻されている。

室町幕府の下知状（＊げちじょう）

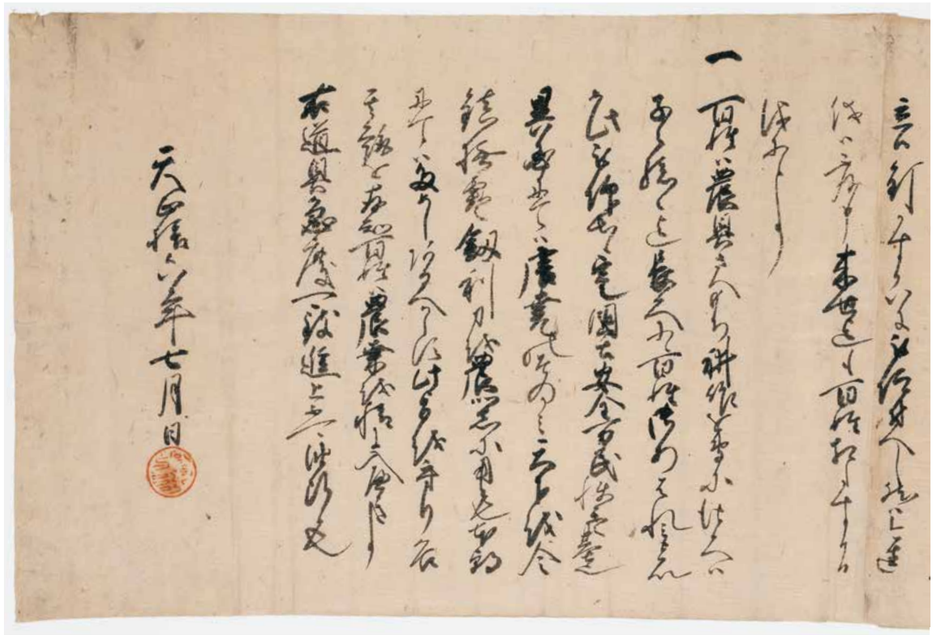
＊命令を下達する文書

飯尾文書 6　室町幕府下知状（管領細川勝元奉書）　享徳 4 年（1455）2 月 22 日

飯尾元連が、前日に没した父・貞連の所領・所職を相続することを認めた下知状。飯尾氏は代々室町幕府奉行人を務めた事務官僚の家柄であり、元連もこの年、父の跡を継いで奉行人に就く。その後は唐船奉行をはじめとする別奉行を歴任し、幕政を支えた。

豊臣秀吉の朱印状　刀狩令と海賊停止令

3　豊臣秀吉朱印状（刀狩令）　天正 16 年 7 月日　〔第 2 紙 46.0 × 64.6〕



（2）

4　豊臣秀吉朱印状（海賊停止令）　天正 16 年 7 月 8 日　〔46.5 × 66.6〕

⑧⓪～⑧③ 尊経閣古文書纂 社寺文書（そんけいかくこもんじょさん しゃじもんじょ）一～四

〔約 850 点〕

第4回配本〔2022年9月〕
⑧⓪ 尊経閣古文書纂 社寺文書 一　予価二八、六〇〇円（税込）
ISBN978-4-8406-2380-3

第5回配本〔2022年12月〕
⑧① 尊経閣古文書纂 社寺文書 二　予価三一、九〇〇円（税込）
ISBN978-4-8406-2381-0

第6回配本〔2023年3月〕
⑧② 尊経閣古文書纂 社寺文書 三　予価二八、六〇〇円（税込）
ISBN978-4-8406-2382-7

第7回配本〔2023年6月〕
⑧③ 尊経閣古文書纂 社寺文書 四　予価三三、〇〇〇円（税込）
ISBN978-4-8406-2383-4

所領の安堵状や補任状、寺院の運営など、多岐にわたる古文書群

社寺の内訳は、⑧⓪石清水八幡宮・加茂社・仁和寺心蓮院／⑧①宝菩提院・東福寺／⑧②長福寺・大覚寺・大光明寺・⑧③高野蓮養坊・南禅寺慈聖院・天龍寺真乗院・天龍寺周悦関係・西興寺・園城寺実相院・清水寺・神護寺・青蓮院

「尊経閣古文書纂」のうち、社寺文書を中心とした古文書群で、神社が二群、仏寺が一五群、総数は八四五点である。内訳は、石清水八幡宮文書＝一三二点、加茂社文書＝一四点、仁和寺心蓮院文書＝一九点（以上、三群を「社寺文書」一として集成）、宝菩提院文書＝九九点、東福寺文書＝一九五点（以上、二群を「社寺文書」二として集成）、長福寺文書＝一四五点、大覚寺文書＝一五点、大光明寺文書＝一二点（以上、三群を「社寺文書」三として集成）、高野蓮養坊文書＝二七点、南禅寺慈聖院文書＝四八通、天龍寺真乗院文書＝一四点、天龍寺周悦関係文書＝二三点、西興寺文書＝二〇点、園城寺実相院文書＝二一点、清水寺文書＝一〇点、神護寺文書＝二一点、青蓮院文書＝二九点（以上、九群を「社寺文書」四として集成）。

社寺文書の内容は、所領の安堵状や補任状が多くを占めるほか、寄進状や田地売券、祈禱状など多岐にわたる。石清水八幡宮文書は、多くの別宮・社領を有した石清水八幡宮の古文書群で、所領安堵や土地相論に関する古文書が多く残り、『史料纂集古文書編　尊経閣文庫所蔵石清水文書』（八木書店）に翻刻されている。東福寺文書は、京都五山に列せられ、武家政権から庇護を受けた東福寺から流出したものの一部で、足利尊氏の自筆祈禱状などが伝わる。

また、末寺や別院の運営、寺家の経営に関する古文書も残されている。例えば、宝菩提院文書は東寺の塔頭である宝菩提院の古文書だが、石山寺およびその別院とされた嘉祥寺に関する古文書も含まれている。長福寺文書は、現在の京都市右京区梅津に所在する長福寺の伝来文書で、寺院の金融資金である祠堂銭関係の古文書も残されている。

さらに、天龍寺真乗院文書は、京都五山筆頭天龍寺の塔頭である真乗院の古文書だが、楠木正成らに仕えた和泉国和田氏（みきた）に関係する古文書を含み、大塔宮（護良親王）の令旨や楠木正儀の書状が伝わっている。

後嵯峨上皇の院宣（*いんぜん）

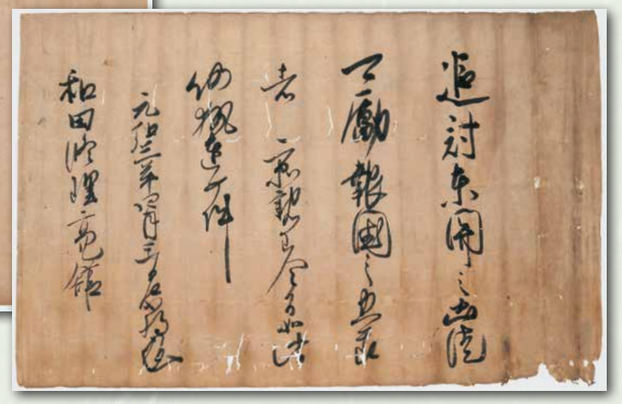
＊上皇の命令を受け院司（直属の職員）が発給する文書

石清水八幡宮文書 9-3 後嵯峨上皇院宣　建長６年（1254）12 月５日

周防国得善保をめぐり、石清水八幡宮と国司との間に争いが生じたため、本文書をもって社領を安堵した。文中の「地頭職事」とは、建長２年（1250）に幕府より下された地頭職停止の避文のことで、これを根拠に国司の濫妨を禁じ、石清水八幡宮による保務遂行を保証している。

大塔宮（護良親王）の令旨（*りょうじ）

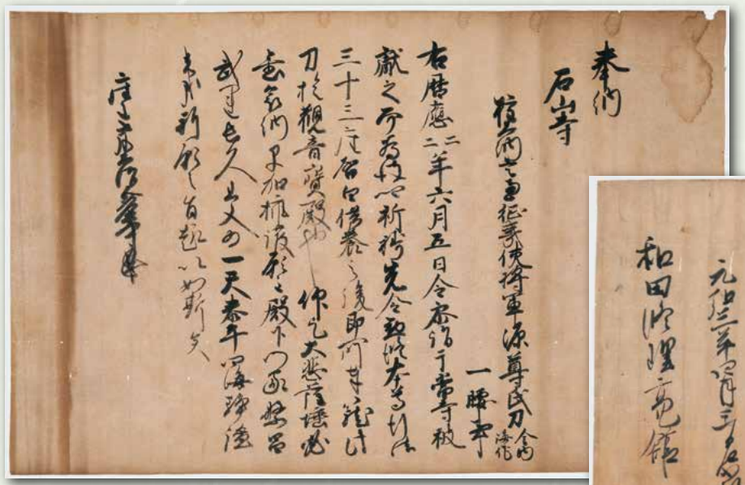
＊皇太子・皇后など皇族の命令を伝える文書



天龍寺真乗院文書 5 大塔宮令旨　元弘３年（1333）４月３日

和泉国大鳥郡和田郷を本領とする和田助家に対し、大塔宮（護良親王）が下した六波羅追討の令旨。和泉和田氏は国御家人であったが、一方で楠木正成ら宮方にも与して生き残りを図った。令旨を受けた惣領助家は病と称して嫡男助康を京都に派遣しつつ、自らは次男助秀とともに千早城攻めに武家方として参陣している。

足利尊氏の刀奉納を記した文書



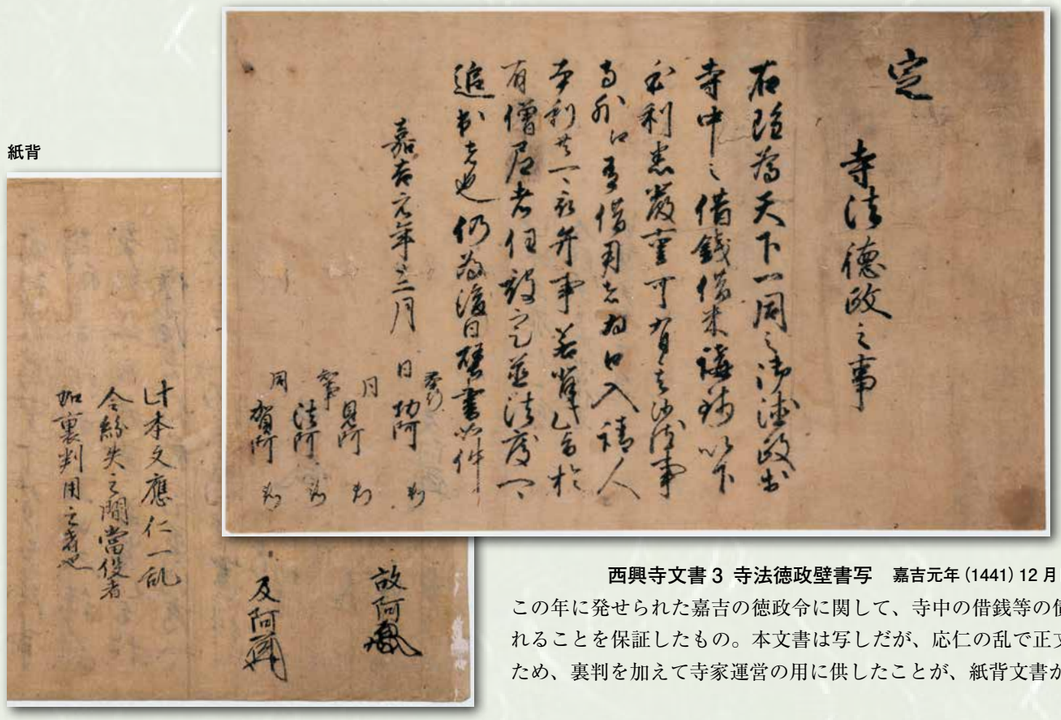
宝菩提院文書 13 足利尊氏宝刀奉納土代
暦応４年（1341）６月５日

足利尊氏が近江国石山寺に参詣した際、家門繁栄・天下泰平を祈願して、刀一腰を奉納した。石山寺は武家からの帰依も厚く、建武５年（1338）には足利直義の命で大般若経を読経させ、天下静謐を祈願している。差出にみえる座主前大僧正益守は『石山寺縁起絵巻』の制作に関与したとされ、一時は東寺長者を兼ねた。本文書が東寺塔頭の宝菩提院に伝来した背景には、益守の経歴が関連していよう。

嘉吉の徳政令（*）への対応を記す

＊債権・債務の破棄を命ずる法令

紙背



西興寺文書 3 寺法徳政壁書写　嘉吉元年（1441）12 月日

この年に発せられた嘉吉の徳政令に関して、寺中の借銭等の債権は維持されることを保証したもの。本文書は写しだが、応仁の乱で正文が紛失したため、裏判を加えて寺家運営の用に供したことが、紙背文書からわかる。

㊹～㊽ 尊経閣古文書纂 編年雑纂文書（そんけいかくこもんじょさん へんねんざつさんもんじょ） 一～五

付宸翰文書類

〔約 960 点〕

編年文書・朝鮮文書・外国文書・俳人等文書・未定文書・宗教関係文書からなる多種多様な古文書群

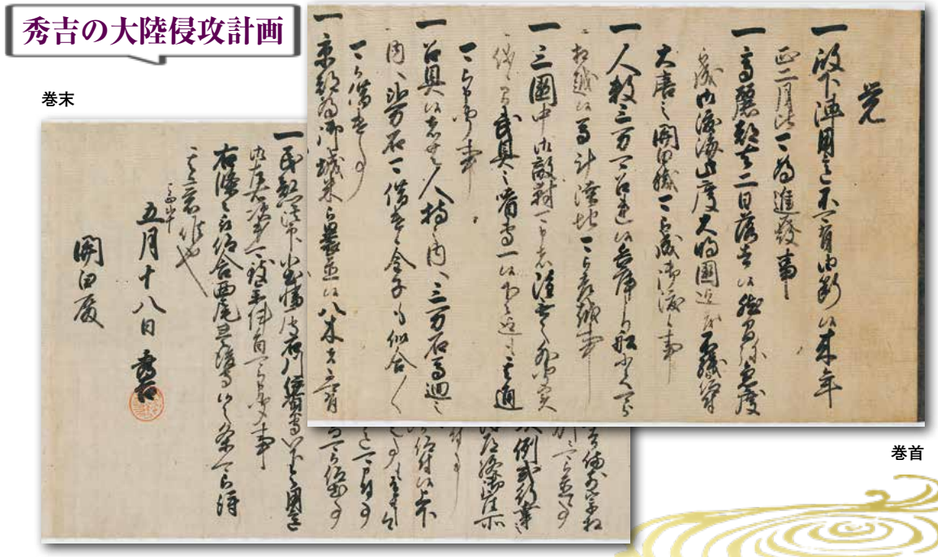
国宝、重要文化財指定の宸翰文書類を付載

「尊経閣古文書纂」のうち、諸家・社寺両文書に分類されない古文書を収めたもので、総数は約九二〇点である。内訳は、編年文書＝約六九一点、朝鮮文書＝二二点、外国文書＝一三点、俳人等文書＝七点、未定文書＝約一五五点、宗教関係文書＝三二点で、編年文書は三分冊、それ以外の古文書は二分冊として集成する。

このうち編年文書は、年次順に五七七の番号（枝番あり）を付けて配列したもので、一番は、天平勝宝四（七五二）年六月十五日の解（重要文化財「買新羅物解」七通のうち）、最後の五七七番は、江戸時代中期、延享期（一七四五年頃）と推定される年未詳五月二十三日の日野資枝書状である。源頼朝や足利尊氏などの成巻史料や荘園・村落関係史料など多種多様な古文書が収載されている。

朝鮮文書は、豊臣秀吉による二度の朝鮮出兵に関する古文書をまとめたもので、陣法度や軍勢人数次第といった豊臣秀吉・秀次の朱印状が多く、秀吉による中国・朝鮮征服計画を記したことで著名な「豊太閤三国処置太早計」（一巻）も含まれている。外国文書には、高山国（現在の台湾）宛の豊臣秀吉朱印状（一巻）や、徳川家康時代の安南・占城（ともに現在のベトナム）等宛の渡海朱印状（五通）などを収録する。

なお最終冊には、文庫が所蔵する「三朝宸翰」（二巻、国宝）、「後醍醐天皇宸翰御感状」（一幅、重要文化財）といった巻子や掛幅に装幀された宸翰などの古文書約四〇点も収録する。「三朝宸翰」は、伏見・花園・後醍醐三天皇が青蓮院門跡に宛てた宸筆消息を貼り継いだもの。第一巻が花園天皇の消息一二点、第二巻が後醍醐天皇の消息一〇点と伏見天皇の消息二点で、紙背に法華経を摺写した痕跡があり、供養経として伝来したとされる。「後醍醐天皇宸翰御感状」は、年月日欠ながら、後醍醐天皇が元弘の変以来の足助重治の軍功を賞し、さらなる忠節を期待した感状である。



巻首

巻末

秀吉の大陸侵攻計画

朝鮮文書 5 豊臣秀吉朱印状（豊太閤三国処置太早計）　天正 20 年（1592）5 月 18 日

豊臣秀吉が関白豊臣秀次に、大陸への侵攻計画と征服後の三国（日本・朝鮮・中国）の国割り構想を述べた朱印状。後陽成天皇を北京に迎えて皇帝とし、その関白を秀次、日本の天皇に良仁親王（後の後西天皇）もしくは八条宮智仁親王、その関白に宇喜多家を据えるなどとしている。加賀藩５代前田綱紀は、本文書を巻子に装禎する際、秀吉構想の非現実さを評価して「豊太閤三国処置太早計」と命名した。　※㊼に収録

第8回配本〔2023年9月〕
㊹ 尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 一　予価三三、〇〇〇円（税込）　ISBN978-4-8406-2384-1
第9回配本〔2023年12月〕
㊺ 尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 二　予価三一、九〇〇円（税込）　ISBN978-4-8406-2385-8
第10回配本〔2024年3月〕
㊻ 尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 三　予価三三、〇〇〇円（税込）　ISBN978-4-8406-2386-5
第11回配本〔2024年6月〕
㊼ 尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 四　予価三〇、八〇〇円（税込）　ISBN978-4-8406-2387-2
第12回配本〔2024年9月〕
㊽ 尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 五 付宸翰文書類　予価三〇、八〇〇円（税込）　ISBN978-4-8406-2388-9

奈良時代の貴重史料

【重要文化財】編年文書 5 買新羅物解　天平勝宝 4 年（752）6 月 23 日

新羅からの舶来品を購入するために、貴族たちが官司に提出した解（上申文書）。鏡や白銅など 23 種の購入希望品目とその数量、その対価として綿と糸の数量が記されている。東南アジア・インド産の香料（麝香）や染料（蘇芳）など、当時の新羅が広域的な交易活動を行っていたことがわかる。もと正倉院宝物の鳥毛立女屏風の下貼りに用いられていたもので、うち７点を前田家が入手した。　※㊹に収録

【高精細カラー版】尊経閣善本影印集成の製作工程

❶ 原本撮影 ＊前田育徳会・八木書店

古典籍・古文書に最適な撮影技術を用いて、高精度なデジタル撮影を行い、可能な限り豊富な原本情報の再現を図る。

❷ レイアウト ＊八木書店

DTP ソフト（Adobe InDesign）を用いて、影印本文のトリミング・柱表示・ノンブル等の割付を行い、校正刷で確認の上、組版データを入稿。

❸ 製版～色校正 ＊天理時報社

撮影 RAW データを CMYK 4 版に変換し、高精度の印刷用画像を生成（イクオス・スーパーセル 260 線）。色調整を済ませて、本番に使用する印刷機・印刷用紙で全頁の校正刷を印刷。

❹ 原本照合 ＊前田育徳会・八木書店

原本と本紙色校正との色照合を実施。要調整箇所については校正刷に指示を記入。これを元に印刷用データを調整。

❺ 印刷 ＊天理時報社

最新のハイブリッド UV システムを使用。インキは UV 光照射による速乾性で、最終的な仕上がりを即時に確認可能。八木書店の担当者も立ち会い、点検・調整の上、印刷を進行。

❻ 製本 ＊博勝堂

糸かがり、上製クロス装とし、日常の連用・長期保存に耐える堅牢な製本に。

尊経閣善本影印集成【第10輯 古文書 全12冊】★定期予約・分売予約募集中！

前田育徳会尊経閣文庫 編 〔編集委員〕藤井譲治・尾上陽介

★高精細カラー版 ★B5判上製・貼函入・平均220頁予定
★セット予価三七九、五〇〇円（本体三四五、〇〇〇円＋税10％）
★3ヶ月毎配本
ISBN978-4-8406-2300-1

第1回配本〔2021年12月〕予価三一、九〇〇円（税込）
⑦⑦ **武家手鑑** 付旧武家手鑑 ISBN978-4-8406-2377-3

第2回配本〔2022年3月〕予価三一、九〇〇円（税込）
⑦⑧ **尊経閣古文書纂 諸家文書 一** ISBN978-4-8406-2378-0
〔所収〕一条・飯尾・蜷川・堀・日置・加藤・野上・駒井

第3回配本〔2022年6月〕予価三四、一〇〇円（税込）
⑦⑨ **尊経閣古文書纂 諸家文書 二** ISBN978-4-8406-2379-7
〔所収〕籠手田・天野・得田・得江・吉見・毛利・当家（前田）・中原

第4回配本〔2022年9月〕予価二八、六〇〇円（税込）
⑧⓪ **尊経閣古文書纂 社寺文書 一** ISBN978-4-8406-2380-3
〔所収〕石清水八幡宮・加茂社・仁和寺心蓮院

第5回配本〔2022年12月〕予価三一、九〇〇円（税込）
⑧① **尊経閣古文書纂 社寺文書 二** ISBN978-4-8406-2381-0
〔所収〕宝菩提院・東福寺

第6回配本〔2023年3月〕予価二八、六〇〇円（税込）
⑧② **尊経閣古文書纂 社寺文書 三** ISBN978-4-8406-2382-7
〔所収〕長福寺・大覚寺・大光明寺

第7回配本〔2023年6月〕予価三三、〇〇〇円（税込）
⑧③ **尊経閣古文書纂 社寺文書 四** ISBN978-4-8406-2383-4
〔所収〕高野蓮養坊・南禅寺慈聖院・天龍寺真乗院文書・天龍寺周悦関係・西興寺・園城寺実相院・清水寺・神護寺・青蓮院

第8回配本〔2023年9月〕予価三三、〇〇〇円（税込）
⑧④ **尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 一** ISBN978-4-8406-2384-1

第9回配本〔2023年12月〕予価三一、九〇〇円（税込）
⑧⑤ **尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 二** ISBN978-4-8406-2385-8

第10回配本〔2024年3月〕予価三三、〇〇〇円（税込）
⑧⑥ **尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 三** ISBN978-4-8406-2386-5

第11回配本〔2024年6月〕予価三〇、八〇〇円（税込）
⑧⑦ **尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 四** ISBN978-4-8406-2387-2

第12回配本〔2024年9月〕予価三〇、八〇〇円（税込）
⑧⑧ **尊経閣古文書纂 編年雑纂文書 五 付宸翰文書類** ISBN978-4-8406-2388-9

※各冊予価は2021年8月時点での設定です。
最新情報は小社WEBサイトでご確認ください。

【好評既刊】図書館・研究室必備のシリーズ！ ★各冊分売いたします

第1輯 儀式書 全12冊（モノクロ網目版）（セット品切） ISBN4-8406-2291-4
①～⑥西宮記／⑦～⑨北山抄（⑦品切）／⑩～⑫江次第

第2輯 類書 全5冊（二色刷）（セット品切） ISBN4-8406-2292-2
⑬秘府略／⑭～⑯二中歴・掌中歴（⑭品切）／⑰拾芥抄

第3輯 古辞書 全8冊（二色刷）（セット品切） ISBN4-8406-2293-0
⑱⑲色葉字類抄（⑱品切）／⑳節用集／㉑～㉔字鏡集／㉕温故知新書・童蒙頌韻

第4輯 古代史籍 全9冊（二色刷） セット定価286,000円（本体260,000円＋税10％） ISBN4-8406-2294-9
㉖日本書紀／㉗～㉙釈日本紀／㉚古事記／㉛古語拾遺／㉜～㉞類聚国史

第5輯 古代法制史料 全5冊（二色刷） セット定価163,900円（本体149,000円＋税10％） ISBN4-8406-2295-7
㉟交替式・法曹類林／㊱政事要略／㊲～㊴類聚三代格

第6輯 古代説話 全6冊（二色刷） セット定価151,800円（本体138,000円＋税10％） ISBN978-4-8406-2296-7
㊵日本霊異記／㊶三宝絵・日本往生極楽記／㊷新猿楽記／㊸三宝感応要略録／㊹江談抄／㊺中外抄

第7輯 平安鎌倉儀式書 全10冊（二色刷） セット定価257,400円（本体234,000円＋税10％） ISBN978-4-8406-2297-4
㊻内裏式／㊼本朝月令要文・小野宮故実旧例・年中行事秘抄／㊽雲図鈔／㊾無題号記録（『院御書』）・春玉秘抄／㊿春除目抄・京官除目次第・県召除目記／(51)禁秘御抄／(52)局中宝／(53)夕拝備急至要抄・参議要抄／(54)羽林要秘抄・上卿簡要抄／(55)消息礼事及書礼事・大臣二人為尊者儀・大要抄・大内抄・暇服事

第8輯 平安古記録 全11冊（高精細カラー版）
セット定価393,800円（本体358,000円＋税10％） ISBN978-4-8406-2298-1
(56)～(64)小右記／(65)水左記／(66)台記〔宇槐記抄・宇槐雑抄・台記抄〕

第9輯 鎌倉室町古記録 全10冊（高精細カラー版）
セット定価398,200円（本体362,000円＋税10％） ISBN978-4-8406-2299-8
(67)～(69)実躬卿記／(70)実躬卿記・宣陽門院御落飾記・後愚昧記（山門嗷訴記・実豊卿記）／(71)公秀公記・実隆公記・建治三年記／(72)外記日記新抄／(73)外記日記新抄・享禄二年外記日記／(74)(75)碧山日録／(76)蔗軒日録・盲聾記

【第9輯 鎌倉室町古記録 全10冊】

※各輯在庫は2021年8月時点での情報です。
最新情報は小社WEBサイトでご確認ください。

八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ● E-mail pub@books-yagi.co.jp
● TEL 03-3291-2961［営業］ 03-3291-2969［編集］ ● FAX 03-3291-6300
● Web https://catalogue.books-yagi.co.jp/
〔2021.8.TP.20,000〕